

TSUKUKOMA GUIDE

2024-2025

学校案内



筑波大学附属駒場中・高等学校

Junior & Senior High School at Komaba, University of Tsukuba





本校の教育方針

本校の教育活動における方針は、「学業」「学校行事」「クラブ活動」の3つの教育機能を充実させ、
学校という場で生徒の全面的な人格形成を促し、発達させていくところにあります。

学業	学習についての基本事項と基本的な考え方の定着 好奇心・探究心の伸長と、自ら学び発展的に考える姿勢の涵養 個性と才能の異なる生徒への細やかな指導と、生徒同士が高め合う環境の整備
学校行事	長期にわたる共同作業（企画→立案→運営→実行）を通じた作品や行事の完成 行事ごとのリーダーシップとフォローアップの発揮 互いに異なる才能のぶつかり合いと尊重
クラブ活動	全活動の基盤である体力、運動能力、精神力の向上 かけがえない仲間との活動、異学年との交流 他者を大切に思う心の発達



全面的な人格形成

全面的な人格形成と発達なくして個々・個別の能力は伸びない！

学業

心とからだの
全面発達

学校行事

クラブ活動

附属学校のミッションを掲げて

北村 豊

筑波大学附属駒場中・高等学校長
筑波大学生命環境系教授



本校が附属する筑波大学は、官立師範学校としての創基から2022年で150年となりました。また2023年には、新構想大学として研究学園都市（茨城県）に開学して50年の節目を迎えたところです。歴史ある筑波大学の11ある附属学校群の1つとして、本校は各校と協力しながら、自校に課せられた国立大学附属学校としてのミッションを果たしています。

2004年の法人化以降、国立大学はその業務運営における目標とそれを達成するための計画を6年ごとに作成し公表しています。2022年からの第4期中期目標・計画において、本校は大学と連携しながら、全国・地域の中等・グローバル人材育成の教育を先導するとともにインクルーシブ教育システムを構築し、その成果を展開するとしています。そしてその具体的な評価指標の一つに、大学講義の先取り履修・単位認定システムの構築があります。

筑波大学は研究型の総合大学として、多種多様の学術・研究分野を網羅しています。よってこれに附属する学校群は、大学との学習の連携に高いポテンシャルを有しています。しかし実際に大学を訪問して授業を受けるのは、時空間的に容易ではありません。特に、ここ駒場にある本校と筑波大学との教育研究における連携は、労力を要するものでした。しかしIT技術の急速な発展と普及がオンラインでの学習を日常化した今なら、バーチャル空間を活用した大学との連携強化とそれによる教育の高度化が大いに期待されます。

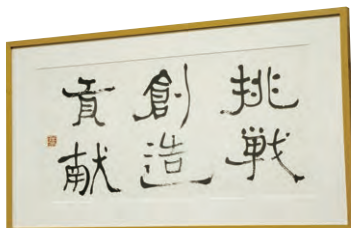
一方、本校の最大の魅力は、生徒が互いに自由闊達に学びあえるリアル空間を提供することにもあります。決して設備的に恵まれた環境ではありませんが、この筑駒で出会う学友たちとの学校生活は、刺激や興奮、感動等に満ち溢れたものであろうと断言できます。それは、授業中の教室のあちこちから聞こえる歓声と拍手からも、そして合唱祭、文化祭、体育祭という3大学校行事開催を目指して奮闘する姿からも明らかです。挑戦・創造・貢献という本校独自の学校目標を達成する力の源泉がそこに存在しています。

もう一つの評価指標がインクルーシブ教育支援の増進にあります。附属学校群には特別支援校があり、ボーダーレスな教育が行われる機会を提供します。そこでは日常の教科学習にとどまらない、社会の多様性の理解や主体的・探求的な学びを加速させることもできます。これらに加えて、開校以来の伝統としている農学レガシー・ケルネル田圃での水田学習をはじめ、地域研究や課題研究、さらにはクラブ活動や生徒・自治会運営といった様々な教育機能は、本校をまるで小さな大学のようなアカデミアに仕立て上げています。

創立から三四半世紀を経て、本校はこれからも、附属学校のミッションを達成しながら、山積する地球規模課題の解決に貢献できるグローバルトップリーダーを育成していきます。

学校目標

自由・闊達の校風のもと 挑戦し、創造し、貢献する生き方をめざす



「挑戦」とは、既成の価値観にとらわれがちな自分自身に立ち向かって、新しい世界を切り開こうとする精神面での姿勢をさしています。

「創造」とは、本校の校風である「自由・闊達」の具体的な表現で、

柔軟にのびのびとすべてに意欲的に取り組もうとする行動面での姿勢をさしています。

「貢献」とは、自らに「挑戦」し、「創造」した結果として実現したものを、社会に役立てることをさしています。

国や地域の教育を牽引する拠点校として研究開発を実践

国 立大学の附属学校には、2つの大きな使命があります。1つは教育に関する研究や教育実習の実施に協力すること、もう1つは「国の拠点校」「地域のモデル校」として、日本の初等

中等教育における研究開発を実践していくことです。筑波大学の附属学校である本校では「先導的教育」「教師教育」「国際教育」の3つの分野において、国の拠点校をめざしています。

先導的教育拠点

スーパーサイエンスハイスクール

**SSHの取り組みと生徒たちの
特異な才能を生かす「学びの場」の充実**

2002年度以降4期20年にわたり、SSHとして「国際社会に貢献する科学者・技術者の育成を目指した学習システムと教材開発」を進めてきました。現在はその成果を活かしながら独自の取り組みを進めています。2023-24年度は文部科学省による「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」の実証研究協力校として採択され、本校が培ってきた学習・生活環境について専門的見地から検証するとともに、「学びの場」の充実をはかっています。



技術科SSH「メディア虎の穴」



SSH生徒研究発表会での発表

教師教育拠点

**公開授業や教員研修会による
教育研究成果の発信**

毎年11月には、「教育研究会」を開催し、公開授業と研究協議会を実施しています。SSHで受けた恩恵とその成果は、「数学科教員研修会 in 筑駒」などを開催し、多くの学校の先生方に発信しています。また、2022年に教員免許状更新講習制が終了した後も、日本のみならず海外からも数多くの先生方や教育関係者を授業見学・学校視察に受け入れており、教員研修の一環として「附属学校としての筑駒の教育」をご覧いただいています。



公開授業(数学科)



海外から視察の先生方とともに

国際教育拠点

**国際社会に貢献して活躍できる
トップリーダーの育成**

高校1・2年生のべ30名近くが、毎年12月に台中市立台中第一高級中学(台湾)(日本の高校に相当)、毎年3月に韓国釜山国際高校を訪問し、生徒研究交流会を行っています。海外からの教育視察団や修学旅行で日本を訪れる生徒、日本の大学で研究している研究者との交流も盛んで、国内でも国際交流が活発に行われています。また、国際科学オリンピックなどのコンクールでは多数の日本代表を輩出し、毎年多くの生徒が海外に派遣されています。



釜山国際高校との交流



台中市立台中第一高級中学との交流

中・高・大・院が連携できる強みをいかして

本 校では年に2回、筑波大学の学生を多数受け入れて教育実習を行っているほか、筑波大学の先生方や研究者の協力を得て、校内において多数の講演会や実験講座を開催

しています。また、中学3年生と高校2年生の全員が筑波大学の研究室を訪問し、学問の最先端に触れるとともに、第一線の研究者から直接教える機会を設けています。



教育実習

筑波大学教員留学生訪問

中3筑波大学訪問

毎年2月上旬、中学3年生が筑波大学を訪問します。筑波大学教授による講演で刺激を受けたあと、学食での昼食やキャンパス内を散策。午後はグループに分かれて研究室を訪問し、希望する講座を受講します。



中3筑波大学訪問 開講講座一覧(2023年度)

	学群・学類	テーマ
1	人文学類	和本に触れて、巻物を開いて、写して読んでみる
2	比較文化学類	文化人類学者の仕事
3	日本語・日本文化学類	古典籍にふれてみる
4	社会学類	現代社会学入門～「つながり孤独」について考えよう～
5	生物学類	ハエを研究してヒトのがんを理解する
6	生物資源学類	生物の不思議『なんでだろう?』を化学する
7	生物資源学類	偉大なモデル生物「線虫」を学ぼう
8	地球学類	山岳域の天候変動が面白い
9	数学類	見えない"カタチ"をどう見るか?
10	物理学類	光のふしぎ、原子のふしぎ
11	応用理工学類	身近な物・現象を科学の目で見ると
12	工学システム学類	情報・符号・暗号+α
13	情報科学類	スーパーコンピュータ「Cygnus」見学
14	情報科学類	ビッグデータ情報科学
15	情報科学類	パソコンを進化させる:進化計算について学ぶ
16	知識情報・図書館学類	大学図書館で新しい発見!自分の知らない興味を見つけよう
17	医学類	実験ロボットを使ってみよう
18	医療科学類	iPS細胞の実用化に向けて
19	芸術専門学群	フォトメディア リテラシー入門 Introduction to Photomedia Literacy

3

社会貢献プロジェクト「筑駒アカデミア」

学校を舞台にして「学ぶ喜びの体験」を地域に還元

本校では、2007年度より世田谷区との共催、2008年度からは目黒区の後援も加わり「筑駒アカデミア」を開催しています。この事業は、緑豊かな駒場を舞台に筑波大学・生徒・教員・卒業生(若葉会筑駒人材バンク)による「学ぶ喜びの体験」を目指し、開設されました。毎年3月に実施している公開講座では、本校の教員や生徒、卒業生などが中心となり、地域の子供たちから社会人まで参加できる楽しい講座を開いています。こうした取り組みを通じて、筑駒で育てられてきた

数多くのユニークな教育内容や、生徒・教員・卒業生が一体となつてつくる学校文化を、筑波大学の附属学校として地域に積極的に還元していきたいと考えています。

公開ワークショップ
「えんげきマンがやってくる!」



公開講座 1「筑駒合唱祭」
4「将棋を楽しむ」

2「つい教えたくなる樹木のはなし」
5「はじめよう!ジャグリング」

3「CGとARを作ってみよう!」
6「Brush up your English! ~英語でコミュニケーション・入門編~」

見方・考え方を深め、幅広い教養を身につける

学校の1日

8時20分に予鈴が鳴り、生徒は各クラスの教室や特別教室に入って、1時間目の授業の準備をします。その後、午前中に4時間、昼休みをはさんで午後2時間の授業があります。

放課後はクラブ活動、各委員会活動、学年や学級の活動が行われます。図書スペースの本やコンピュータスペースを利用してレポート作成などをする生徒もいます。夕方5時が下校時間ですが、多くの部活動は届けを出して6時まで活動します。

なお、原則として隔週の土曜日が登校日となります。土曜日は午前中の4時間だけで、生徒会活動や、音楽祭・体育祭・文化祭・弁論大会等といった行事の準備、水田稲作・校外学習の準備・テーマ学習等の総合学習を行います。

1日の時程

	月	火 - 金
登校	8:20	
1校時	8:30 - 9:20	
2校時	9:30 - 10:20	
3校時	10:30 - 11:20	
4校時	11:30 - 12:20	
昼休み	12:20 - 13:10	
集会	13:10 - 13:20	—
5校時	13:30 - 14:20	13:10 - 14:00
6校時	14:30 - 15:20	14:10 - 15:00

現在、月曜日は火～金曜日と同様の時程(集会を昼休みに放送にて実施)

中学校のカリキュラム(教育課程)と学習

中学校の学習は、小学校での学習をふまえ、様々な教科に分かれて専門の教員のもとで行います。本校ではどの教科も、基本事項を習得する学習→応用力を養う学習→個々人が発展的に学ぶ学習というような段階をふまえた取り組みを考えています。

まず、各教科とも基本をしっかりと学習します。これは単に基礎的な知識を記憶するというものではありません。さまざまな物事に対する見方・考え方の基本を身につけるということです。学習の方法は自分に適したものを作り出す必要がありますが、はじめから自分勝手な学習方法では、将来大きく才能を伸ばすことはできません。

次に、応用力を養います。基礎力を生かしながら、新たな考え方や問題解決の方法を得るには、どのように考えていけば良いのかを学びます。

そして最後は、生徒自身がそれぞれの興味・関心に応じて、より高度な、より深い内容を自ら学び、身につけていきます。このような学習によって、高等学校でのさらに進んだ学習に対応できる学力を身につけていきます。

中学校教育課程

教科等	1年	2年	3年	計
国 語	4	5	4	13
社 会	4	3	4	11
数 学	4	4	4	12
理 科	3	4	4	11
音 楽	2	1.5	1.5	5
美 術	2	1.5	1.5	5
保健体育	3	3	3	9
技術・家庭	2	2	2	6
外国語(英語)	4	4	4	12
道 徳	1	1	1	3
特別活動	1	1	1	3
総合的な学習の時間	2	2	2	6
合 計	32	32	32	96

表の数字は週あたりの授業時数



英語科SSHプレゼンテーション講座



高3体育



高1英語

高等学校のカリキュラム（教育課程）と学習

高等学校では、中学校と同様に、月曜から金曜まで毎日 6 時間ずつ授業を行い、原則として隔週の土曜日の午前中に課題研究、総合的な探究、生徒自治会総会や学校行事の準備などを行っています。

高校教育課程

	高校1年	高校2年	高校3年			
1	現代の国語(2)	文学国語(2)	論理国語(2)			
2						
3	言語文化(2)	古典探究(3)	※ 古典探究(2)			
4			政治・経済(1)			
5	地理総合(2)	公共(2)	倫理(1)			
6			※ 数学Ⅱ(2)			
7	歴史総合(2)	歴史概論(2)	★ 数学Ⅲ(4) ★ 地学基礎(2) ★ 古典講読(2)			
8						
9	数学Ⅰ(2)	数学Ⅱ(3)	★ 数学Ⅲ(4) ★ 地学基礎(2) ★ 古典講読(2)			
10	数学A(2)					
11	化学基礎(2)	数学B(2)	★ 数学Ⅲ(4) ★ 数学B(2)			
12						
13	生物基礎(2)	■ 物理基礎 or 地学基礎(2)	★ 物理(4)	★ 生物(4)	★ 地学(4)	★ 地理探究(3) ★ 日本史探究(3) ★ 世界史探究(3)
14						
15	体育(3)	■ 化学 or 生命科学(2)	★ 物理(4)	★ 生物(4)	★ 地学(4)	★ 地理探究(3) ★ 日本史探究(3) ★ 世界史探究(3)
16						
17	保健(1)	体育(3)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
18						
19	◆ 芸術(2)	保健(1)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
20						
21	情報Ⅰ(2)	◆ 芸術(1)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
22						
23	英語コミュニケーションⅠ(3)	家庭基礎(2)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
24						
25	英語コミュニケーションⅡ(4)	英語コミュニケーションⅡ(4)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
26						
27	論理・表現Ⅰ(2)	英語コミュニケーションⅡ(4)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
28						
29	総合的な探究の時間(1)	◆ 理数探究基礎 or 総合的な探究の時間(1)	★ 化学(2) 高2化学選択者			
30						
31	特別活動: HR(1)	特別活動: HR(1)	特別活動: HR(1)			
32	特別活動(1)	特別活動(1)	特別活動(1)			
33			☆ 学校設定科目「課題研究」(1)			

無印：必修 ■◆：選択必修 ※★☆：選択可能な範囲で自由選択

◆ 高1：音楽Ⅰ、美術Ⅰ、工芸Ⅰ、書道Ⅰから1科目を選択必修。高2・高3：高1時と同系列の「Ⅱ」を選択必修。

卒業に必要な教科科目の修得単位は、77単位以上(理数探究基礎/総合的な探究の時間を含む) [高1：30、高2：30、高3：必修(芸術含む) 8+選択8以上]

その他、ホームルームおよび特別活動に参加し、活動しなければならない。

各教科科目の授業に関して、高校3年生では、個々の進路選択に応じられるよう、選択科目が多くなっていますが、1・2年生では、社会の一員としての幅広く十分な教養を身につけるべく、共通した学習を行うようになっています。各授業の内容は中学校に比べればもちろん高度になりますが、学習に対する姿勢は中学校で説明したことと基本的には変わりません。



台中一学生とランチタイム



中1理科(教育研究会)



東京医科歯科大学プログラム

豊かな言葉が、君の豊かな世界をつくる

国語って、何を学ぶ教科なのでしょう。日本語で書かれた本は読めるし、作文だって書ける。話すことはもちろんできる。生活は不自由してない気がするのに、なぜわざわざ学習するのだろうか？ もしかすると、「とにかく道德っぽい、先生の喜ぶ読み方や書き方をしておけばいい時間」と思っている人もいるかもしれません。でも、国語の時間は道德の時間ではありません。では、国語は何を学ぶ時間なのでしょう。

そのことを考えるために、ちょっと、赤ちゃんだった時のことを思い出してみてください。君が赤ちゃんだったとき、たとえば「犬」でも「猫」でもみな「わんわん」と言っていなかったでしょうか。また、「バイク」も「トラック」も全て「ぶーぶー」だったのではないのでしょうか。もしそうだとしたら、赤ちゃんだった時の君と今の君とでは、同じ1つの世界を見ている、その見え方が全然違うような気がしませんか。赤ちゃんの頃に比べて、今の君に見える世界のほうが、ずっと複雑で豊かです。

どうしてそんなことが起きるのでしょうか。それは、赤ちゃんだった頃に比べて、今の君が、はるかにたくさんの言葉を知っているからです。豊かな言葉が、君に豊かな世界を見せてくれます。君の世界は、君の言葉が作ります。言葉こそが君の世界です。

国語の授業は、この言葉について学ぶ授業です。より多くの言葉を学び、より多くの本を読み、そこからより多くの考え方を知しましょう。そうやって、いま君の目から見える世界を、もっと豊かに広げていくこと。それが、国語の授業がめざすものだと、私たち教員は考えています。

言葉にも色々な働きがあります。自分の意見や気持ちを人に「伝える」働き。それを何か他のものにたくして「ほのめかす」働き。中には「凍てつく炎」のように、意味はよくわからないけど、言葉と言葉の結びつきから別の「新しいイメージを生み出す」働きもあります。私たちは、このうちのどれか1つというのではなく、全ての言葉の働きについて君に学んでもらい、自分の世界をより豊かにしていくことを望んでいます（入試問題にも、そのようなメッセージを込めているつもりです）。

ぜひ、多くの言葉を知り、君の世界を豊かにしていってください。私たち教員も自分の世界を広げていきたいと思っていますし、君の周りの友人たちも、きっと同じように思っているはずです。一緒に言葉について学び、考え、議論することを通じて、お互いの世界をより豊かにしていきませんか。授業への君の参加を待っています。



高2古典(漢文)



中1国語

これからを生きるための認識と判断力を養う

小学校の社会科とちがって、中学校では社会科を地理・歴史・公民の3つの分野にわけて学習します。それぞれ専門の教員が授業を行います。社会科は、私たちが生活している現在の社会が、どのようにつくられ、どのように展開しているかを学ぶ、21世紀を生きていく上で必要な社会認識と判断力を養う教科です。

地理は、中学1・2年生で学びます。まず日本全体のようすをおおまかにとらえてから、各地域の人々の暮らしや文化・産業のようすなどをできるだけ具体的に上げていきます。また、地理は現代の社会もあつかうで、その時々日本や世界で起こったできごととも学習します。夏休みには「身のまわりの環境地図」の作成にも取り組みます。

2年生になると、5月に行われる「東京

地域研究」に関連した取り組みをします。その後、世界の国や地域について学びます。日本とは異なる暮らしや文化の特色などを、具体的に上げていきます。さまざまな国や地域の産業、文化、環境問題、現代の課題を人々の生活する姿を通してとらえられるように、映像や写真なども使って学んでいきます。

歴史は、中学3年間を通して学びます。まず「歴史とは何か」「歴史を学ぶことの意味とは何か」という問いを投げかけ、古今の歴史家たちの言葉を手がかりに、その意義をじっくり考えてもらうことから始めています。それは、年代や人名や事件名を

覚えることも基礎的な知識としてももちろん重要ですが、それ以上に、これまで当たり前と思っていたことを疑ったり、別の視点からとらえてみたりするなど、歴史について自ら考え、理解を深めること

中1地理「水田を測る」



を大切にしているからです。

また、近年の歴史学界における動向や新たな発見などにも注目し、どのように歴史がつくられていくのか、あるいは一般に受け入れられていくのかといったこと自体を教材としてあつかうこともあります。基本的には3年間を通じ、通史にそった形で進めていきますが、時には通史の枠組みにはとどまらず、多角的な視野から歴史を学んでいきます。

公民は、中学3年生で学びます。現代の社会がどのような仕組みで動いているかを知るために、政治・法・経済をそれぞれ取り上げます。身近な社会現象やニュースで話題になっている問題をテーマにして、様々な問題を分析し、自分の頭と自分の視点で考えることをめざします。小学校ではあまり学ばなかった世界の政治・経済にも目を向け、日本の政治・経済の特徴

をつかめるように学習を進めます。授業では、クラス全体やグループで自分の意見を発表したり、話し合ったりする活動もよく行われます。

基礎的な知識をもつことは重要ですが、それ以上に、社会に対する好奇心を強くもって入学することを望みます。授業で話される新しい事実や考え方を自分なりに理解していく力が必要です。また場合によっては、自分でさらに高度な内容を調べて理解を深める力も必要とされます。ふだんから、地理・歴史・政治・経済などに関心を持つように心がけてください。入学して、本校で知的な刺激を多く受け、成長してくれることを期待しています。



テーマ学習「交渉コンペティション」

数学科

の学習でめざすもの

本質を理解して、真の学力を獲得する

数学科では、中高6年間、さらに大学での学びをも見通した長期的な視野で、日々の授業を構成しています。授業を通して、数学に対する興味関心を深めるとともに、事象の本質をとらえ、数学の世界を豊かに広げることがめざされています。数学の学習を進める上で「問題が解けるようになりたい、解ければ気持ちいい」と思うのは自然なことです。しかし、私たちは「問題が解けるようになること」自体を教科の目標とはしません。そのため、例えば大学受験にとらわれた先取り学習は行いません。先取り学習でたくさん問題が解けるようになることが、真の学力であるとは考えていないのです。決してパターン学習には終始せず、事象の本質にせまる活動を重要視しています。

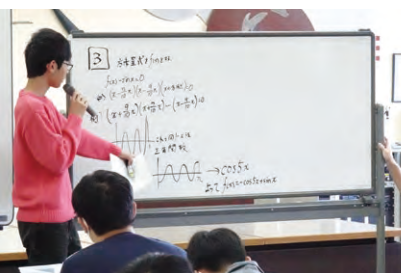
本校では中学数学の内容を代数(数量分野)と幾何(図形分野)に分けています。代数では、文字を活用しながら数や式の構造・概念を体感し、数学の世界が無限に広がることを学びます。幾何では、作図や模型作りも交えて、図形の中にひそむ性質を発見していきます。また、すでに明らかなことだけを論拠

とし、論理の体系を作りあげる「証明」という手法も、幾何を通して学びます。証明は数学だけでなく、論理的に考えること全ての基本になります。

授業では、生徒が発表する時間を特に大切にしています。自分の頭で考え、それを級友に分かるように表現することを繰り返し行います。すると、ただ「問題が解けて楽しい、気持ちいい」と思う先に、「こんな解き方もあったのか」「この問題の背景にはこんなことが隠れていたのか」「ということは、さらにこんなことも言えるのではないか」といった新しい学びにつながり

ます。真の学力はその先にあると、私たちは考えています。

数学は言葉や文化の壁をこえ、何千年にもわたり人類が継承してきた知の財産です。私たちは、みなさんが数学を通して、人生を豊かにする真の学力を獲得することを願っています。単に難しいことを知ろうとするだけでなく、まず自分の頭で考えること、それを支える旺盛な知的好奇心を持って本校の門をたたいて下さい。算数の入試問題も、知識量だけで優劣がつかないよう毎年工夫しているつもりです。みなさんが本校の授業で豊かな創造性を発揮し、ともに学びあえることを楽しみにしています。



高2数学Ⅱ(教育研究会)

中1の授業内容の例

中学1年では、いままでの算数で学んだことを見直ししながら、文字や記号を使って考えを簡潔に表現したり伝えあったりして、数や図形の性質を調べたり深めたりしていきます。例えば整数について、「3・4・6」という3つの数は、これらのどの2つを選んでも、2つの数の差が、2つの数の最大公約数に一致しています。このことが言える3つの数として、他に「2・3・4」「9・10・12」などがありますが、これらを見つける何か確実な方法はあるでしょうか。また、4つの数で同じことが言えるものは見つかるでしょうか。



理科

の学習でめざすもの

手を動かしてモノから学ぶ、自然科学の方法

理科では、授業を通して自然科学の方法を身につけてほしいと考えています。中学1・2年生では、観察や実験中心の授業を行い、自然現象を観察する方法や態度を学びます。中学2年生の後半から3年生では、観察や実験で得られた結果から、全く別々に見える現象がひとつの式で表されたり、それぞれ異なるように見える花のつくりも、ある規則に基づいていたり、というように、具体的な現象を抽象化していきます。そして、抽象化した内容がさらに多くの現象とどのように関係するかを学びます。これこそが、自然科学の方法なのです。

上記の理由から、理科の時間は観察や実験が多くなります。

その結果をレポートにまとめることも必要になります。観察して気付いたことをスケッチに残したり、実験の結果から何がわかるのか考えたりします。そのような過程を通して、科学的な方法を身につけていきます。たとえ中学校の授業であろうとも、高校でも教えている物理・化学・生物・地学の専門の教員

が授業を行うので、授業の質の高さと幅の広さには定評があります。加えて、中高一貫であるもう1つのメリットは、高校の授業で使う実験器具がそのまま使用できることです。

物理では、「力学の基礎」「電気と磁気の基礎」「光と音の現象の探究」を三本柱とし、生徒実験・規則性の発見・体系化・各現象の再評価を基本姿勢として、授業を展開します。たとえば、レーザー光を使って光の特性を解明したり、発振器やオシロスコープを使って音の特性を調べたり、オシロスコープなどを

使って電気と磁気の相互作用を解明したりする実験などを行います。

化学では、はじめからあまり高度な内容を扱うことはせず、基礎的な事項を重視しています。数多く行う実験と実験ノートを作成、データの整理や考察などを通して、実験の技術と、物質を科学的に探究する力を育てていきます。

生物では、まず植物や微生物の観察を中心に観察の仕方を学び、自分が観察を通して理解した内容をスケッチなどで伝える方法を学びます。その後、光合成や呼吸などについて基本的な実験を行い、科学的に探究する方法を学びます。そして、植物や動物のからだのつくりとはたらき、遺伝や進化、生態系などの分野を深めていきます。

地学では、我々の棲む地球について学びます。大地と大気、そして周りを取り囲む宇宙を知ること、地球の特徴について理解を深めます。扱う事象のスケールが大きいので、抽象化した実験や映像教材が多くなりがちですが、手にとって観察できるものはなるべく実物を用いたり、中学3年生の秋には野外学習として神奈川県新城の城ヶ島で地層の観察や測定を行ったりしています。

このように見ると、4つの科目でまったく異なる学習をするように感じるかもしれませんが、遺伝子1つをとっても、化学や物理の知識がなければ深い理解はできません。さまざまな自然現象を、より広い観点で深く学ぶのが中学校の理科の授業なのです。



イネの各器官の重量測定



生徒とのやり取りを大切にする化学の授業

保健体育科

の学習でめざすもの

きづく、さぐる、いかす、する、みる、ささえる

私たちの人生を豊かに過ごすためには、健康であり、体力があることが大切です。その健康・体力について正しい知識を学び、実践力を高める学問、それが保健体育です。

保健の授業では、「きづく」「さぐる」「いかす」という3つのキーワードを軸に学習を進めていきます。心身の仕組みや働き、病気やけがの予防、応急手当、交通事故について、心の成長や健康、性に関わる問題、環境問題、食品安全に関わること、保健・医

療・福祉に関わる問題など、様々な健康問題を取り上げます。また、体育との関連で健康的なライフスタイルをめざすため、運動・休養・栄養のバランスについて、理論と実践を行います。「姿勢」に関わる授業では、中高6年間にわたる体の成長に

関心を持ち、積極的な体づくりに励むようにしています。

体育の授業では、「する」「みる」「ささえる」という3つのキーワードを軸に学習を進めていきます。実技ですので個々

戦術のポイントを学ぶ



が全力を発揮し、授業に集中してのぞむことは大切ですが、「運動技能が高いこと」「上手なこと」だけが評価基準ではありません。友達のプレイを見て、応援したり、お互いをほめ合ったり、アドバイスを合えたりする能力も大切です。スポーツの戦術や、ルール、歴史的背景などを理解することも大切です。そしてスポーツを楽しむことが多くの人の支えによって成り立っていることを理解し、感謝の気持ちを持てるかどうかなども評価基準に組み入れています。

都心にある学校としては、非常に恵まれた広範囲の体育施設を持っています。各運動部の生徒が中心となってしっかり整備している広いグラウンド、東京オリンピックの練習会場と



真剣に取り組み自然と歓声がわく

して使われた古くも広い体育館、砂入り人工芝テニスコート、全天候型多目的コート、25mが8コース使えるプール、数々のマシンがそろったトレーニング室、さらに剣道場があります。また、体育理

論と保健学習を充実させるための保健体育講義室もあります。これらの施設を有効活用し、科学的な理論に基づいて保健体育の授業を進めていきます。

単なるスポーツ活動の実践にとどまらず、正確なデータをもとに、スポーツサイエンスを応用した保健体育の教育実践活動は、教員のための情報誌などにも紹介されています。筑波大学やその他の大学との共同研究も進め、教育研究会などを通じて、全国への情報発信基地となっています。

英語科

の学習でめざすもの

「聞く」「話す」からはじまる、生きた英語を

本校を卒業した大学生は「帰国生徒ではないのに英語の発音がきれいだ。他の学校の卒業生よりも、聞いたり話したりすることが得意だ」とよく言われます。これは英語をコミュニケーションの手段として使う力が身につけているから

です。本校で英語を学ぶと、どうしてこのような力がつくのでしょうか？

授業の目標は、「コミュニケーション能力」を育てることです。英語を使って「聞く」「話す」「読む」「書く」能力、すなわち四技能を、バランスよく伸ばすことをめざしています。中学校では、四技能の中でも特に「聞く」「話す」能力を重視します。言葉の本質は音声だからです。皆さんが日本語を身につけた時のことを思い出してみましょう。

①聞いたことがわかる→②わかったことが自分で言える→③文字を見て内容がわかる→④わかった内容を文字で表現できる

外国語も基本的には同じで、原則として①→②→③→④の順番で身につけていくことになります。ですから、中学校では「聞く」「話す」を重点的に行うのです。

上で述べた四技能の習得を目標に、学年や内容に最も適した授業方法を、臨機応変に使い分けて授業を進めていきます。大まかに言えば、英語でまず概要を導入し、その後文字で確認し、補足の説明を日本語で行い、音読、ポイントの練習、まとめ、ということになります。上級になるにしたがって、最初の導入でポイントを与え、自分で文意を読み取ることに移行していきます。だからと言って音声をないがしろにするわけではなく、高校2年では外国人指導員との共同授業でディベートなども行います。

中学校の授業は基本的に、基本学習を週2時間、日本人教員

と外国人指導員が2人で担当する発展学習を週1時間、自然な速さの英語を聞き、聴解力を鍛えるLL教室での応用的学習を週1時間それぞれ行います。

基本学習では、四技能の基本をすべてカバーします。それを元に、発展学習では「話す」力を鍛え、応用的学習では「聞く」力を鍛えます。一部の中高一貫校では、高校1年の内容を中学3年で学ぶような「先取り学習」が行われているようですが、本校ではそれは行いません。むしろ、扱った教材に関連した発展的な文章を読むことにより、より深い理解をめざす「拡充型学習」です。

高校での授業は平均週4時間で、決して多くありませんが、内容を深く掘り下げる授業をしており、高度な質を維持しています。高校1年では、教科書を使った総合的な授業である英語コミュニケーションⅠを週3時間、外国人指導員との共同授業で「話す」能力、LL教室の授業で「聞く」能力を鍛える論理・表現Ⅰを週2時間行います。高校2年では、英語コミュニケーションⅡが週4時間あり、そのうち1時間は外国人指導員との共同授業になります。高校3年になると、多様なジャンルの英文で高度な読解力を養成する英語コミュニケーションⅢを週3時間、和文英訳に終始しない「書く」能力を養成する論理・表現Ⅱを週2時間行います。

四技能をバランスよく身につけてもらうために、評価もそれに対応した工夫をしています。

具体的には、学期末考査の筆記テストで「読む」「書く」力を見るだけでなく、全員の前で発表するスピーチやリスニングテストにより、「話す」力や「聞く」力も総合的に評価しています。



LL教室で聴解力を鍛える



国際交流Day:英語でディスカッション

技術・家庭科

の学習でめざすもの

身近な日常生活から、文化や社会まで広く見わたす

技 術・家庭科では、技術の領域と家庭の領域とに分けて学習を進めています。技術分野では、材料を加工して製品をつくることから始めて、機械や装置にこめられた仕掛けや仕組みを理解すること、自然を利用し制御する方法、情報化を支えるコンピュータの仕組みなどを、主に製作・実験・実習・調査を通して学習します。3年間かけて、身近な生活を支える技術から、社会を発展させる技術まで見わたせるよう、さまざまな

課題に取り組んでいきます。

家庭分野では、日常生活そのものを学習の対象としています。衣・食・住に関する知識と実験・実習による体験、その背景にある生活文化、家族・家庭のあり方など、学習内容は広い範囲におよびます。これらの学習を通して、生活の自立に必要な知識や技能を身につけていきます。技術・家庭科は、いろいろな教科の学習成果が示される総合的な教科です。

中学1年生

- ・技術とものづくり1
(ウッドラックの設計と製作)
- ・家族と家庭生活1(家族)
- ・生活の自立と衣食住1(衣生活)
- ・技術とものづくり2
(ランプシェードのデザインと製作)



ウッドラック



ランプシェード



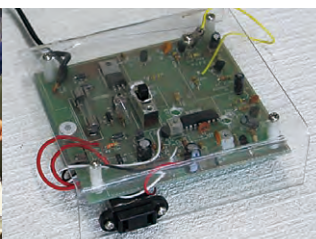
巾着袋製作で基礎縫いを確認

中学2年生

- ・生活の自立と衣食住2(食生活)
- ・技術とものづくり3
(エネルギーの利用と制御・
センサー回路の仕組みと製作)



調理実習



電子回路の組み立て



センサー回路の製作

中学3年生

- ・技術とものづくり4
(生育と環境調節・サツマイモの栽培)
- ・情報とコンピュータ
(計算のしくみ・4ビット
コンピュータのプログラミング)
- ・生活の自立と衣食住3(住生活)
- ・家族と家庭生活2(保育)



校内にある畑でサツマイモ栽培



保育園でふれあい実習



4ビットコンピュータ

高等学校家庭科・情報科の学習

家庭科

中学校での家庭分野の学習をふまえて、家庭生活に不可欠な衣食住に関する実習と理論学習を行います。また家族・保育にまつわる問題、家庭経済と消費などについても取り上げ、探究的な学習に取り組めます。



我が家のお雑煮ルポ

茶碗蒸しで卵の凝固性を実験

情報科

中学校での技術分野や他教科の学習をふまえて、情報や情報技術を活用するための知識と技能を習得していきます。それらの学習を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養っていきます。



C# Line Trace Car

C# 着陸ゲーム

音楽を知り楽しむための知識と技術

音 楽科では、中学は音楽の理論及び歌唱のための基礎的な力を身につけることに主眼をおきます。音楽を表現する力を伸ばし、鑑賞する力を育て、感受性豊かな人格形成を目指します。高校ではその基礎力をさらに伸ばし、芸術性高い名曲

の奥深さを探求していきます。また将来さらに関心が高まった時に気軽にアプローチできるような音楽力を身につけることも目標に、以下のような授業内容で学習を進めます。

1. 楽譜を読む



楽譜の読み書き全般をソルフェージュと言います。本校のソルフェージュでは、教科書や国内外の教本による歌唱教材を利用して階名唱法を進め、楽器の助けなしに声で音にできる読譜力と歌唱力を身につけます。様々な美しい音楽教材により、情操を育て心を豊かにします。

3. 音楽理論

理論では、譜表・音符と休符・拍子とリズム・音名や音の変化・音程・音階・調・和音・曲の形式・楽語・楽譜の書き方などを中心に学び、理論構造や楽譜の意味を分析しつつ学習します。

2. 発声及び歌唱

歌唱や合唱では、本校の三大行事の一つである音楽祭で美しく歌うことができるよう、日頃から本格的な発声についての知識と技術を伝え、声のイメージとともに歌唱を段階的に導いていきます。二部から四部の簡単な合唱曲から始めてだんだんに合唱の楽しさを味わえるような楽曲にレベルアップしていきます。他のパートにつられずに自分のパートを歌える力を身につけながら、パートとしての役割を考えた音楽の多角的な面白さや楽しさを深めます。

4. 音楽鑑賞

鑑賞では、それぞれの音符や記号による楽譜の読み方も勉強し、オーケストラのスコアを見ながらの鑑賞、また演奏もできるよう学習します。

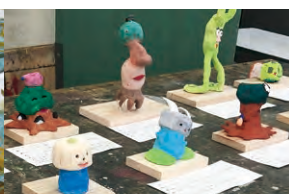
感性豊かに鑑賞し、表現する

美 術科では、自由に表現し、深く鑑賞することで、感性豊かな人格形成をめざします。各学年とも、表現、鑑賞のそれぞれにおいて、絵画、彫刻、デザイン、工芸の各分野について平均的に取り扱い、各分野の題材が基礎的なものから発展的

なものになるように設定しています。これまで図工の授業があまり好きでなかったり、得意でなかったりした人も、ぜひ入学を機に新たな気持ちで授業にのぞんでください。皆さんの豊かな発想力や表現力を、存分に発揮してほしいと思います。



中1美術「彫塑・葉のレリーフ」



中2美術「街のキャラクター」



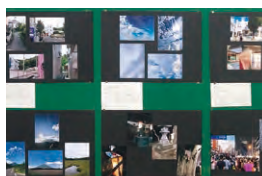
中3美術「スクラッチ画」



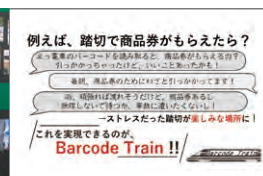
中3書写「四字句を書く」

高等学校芸術科の学習

高校の芸術科においては、音楽、美術、工芸、書道の4科目を開講しています。生徒はいずれか1科目を高校1・2年次に選択必修で履修します。原則的には、同科目を続けて選択します。



高1美術「組写真」



高2美術「身近な生活とデザイン」



高2書道「漢詩を書く」

音楽

- ・声楽（発声・独唱曲・重唱曲・合唱曲）
- ・器楽
- ・音楽史（鑑賞を含む）
- ・読譜力と記譜力を高める練習
- ・理論（楽典、機能と和声、楽式論、楽曲分析等）

美術

- ・絵画表現
- ・デザイン（グループワーク）
- ・写真（スナップ・ライティング撮影）
- ・作家研究

工芸

- ・テクニカルイラストレーション
- ・ペーパークラフト
- ・スツール製作
- ・積層成形による木製小物の製作
- ・陶芸
- ・コンピュータグラフィックス

書道

- ・古典の鑑賞（書体の総てにわたる）
- ・篆刻
- ・創作（色紙・条幅揮毫）
- ・写経
- ・書道史（鑑賞を含む）

フィールドから発展的に学び、深く探究する

各 教科の学習とは別に、より大きな学習テーマを設定し、さまざまな角度から学ぶ学習が、総合的な学習の時間です。中学校では、次のように総合的な学習の時間 A～Eを実施しています。

A 水田学習	中学1年生1学期～2学期
B 東京地域研究	中学1年生3学期～中学2年生1学期
C 東北地域研究	中学2年生2学期～中学3年生1学期
D 個別課題：テーマ学習	中学3年生
E 共通課題：集中講座	中学3年生で2回程度

総合的な学習の時間 **A**

水田学習

本校近くの駒場野公園内に「ケルネル田んぼ」と呼ばれる水田があります。明治時代の初め、本校の前身である駒場農学校に外国人教師としてやってきたオスカー・ケルネル氏が、近代農法を伝えるために作ったものです。本校はこの水田を現在まで維持継承し、中学1年生が1年間かけて、田植え・稲刈り・脱穀と米作りを体験します。収穫された餅米で餅つきをしたり、新入生や卒業生の門出を祝う赤飯にして配ったりしています。

この水田学習は単なる稲作についての労作体験学習というわけではありません。米作りを通して、環境問題や稲作文化の歴史など、幅広い内容を学ぶことになります。

総合的な学習の時間 **D**

個別課題：テーマ学習

中学3年生を対象にした、高度で専門的な内容を学ぶ講座です。専門的といっても内容は特定の教科の学習範囲に収まるものとは限りません。さまざまな教科から毎年8～10講座が開講され、どの講座も10～20人程度の受講生徒を対象に授業が行われます。この授業で教員は、テーマに応じて資料や考え方を示したり、学校外での見学会などの用意をしたりしますが、実際に課題を見つけ調査・研究するのは生徒自身です。これが「個々人が発展的に学ぶ学習」ということなのです。

総合的な学習の時間 **B C**

地域研究

中学2年生で東京地域、中学3年生で東北地方の地域研究を行います。この学習では、それぞれの地域の歴史・文化・産業・経済・自然・環境などから、生徒個々がテーマを設定し、フィールドワークによって調査を行います。まずテーマを決め、テーマごとに班を作ります。その後、文献での事前調査など、フィールドワークを行う準備をします。訪問先への事前の了解をとることも生徒自身が行います。実際にフィールドワークを行った後、その結果を班ごとのレポートにまとめるとともに、ポスターやプレゼンテーションによる発表会を行います。レポートは毎年500ページほどの冊子にまとめられています。

総合的な学習の時間 **E**

共通課題：集中講座

テーマ学習が少人数、選択制の講座であるのに対し、これは中学3年生全員が共通の課題に取り組みます。一人一人の生徒が「発展的に学ぶ」という点は、テーマ学習と変わりません。例年、城ヶ島での理科野外実習と、上野の国立博物館見学など、2つの講座が設置されています。



城ヶ島での野外実習

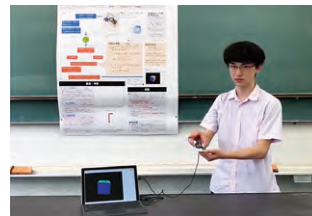
高校の総合的な探究の時間



高校1年生では水田学習・関西地域研究、高校3年生では、本校の学びをまとめあげる活動を行います。

理数探究基礎・総合的な探究

高校2年生では理数探究基礎・総合的な探究、高校3年生では「課題研究」を設定しています。国語、地理歴史、数学、理科、保健体育、英語、障がい科学などで、生徒が課題を設定して探究を進めるゼミ形式の講座を実施しています。



4月播種

5月耕起

6月田植え

8月除草

10月稲刈り



これまで総合的な学習の時間の内容について説明しましたが、DとEで述べた「発展的に学ぶ」ということは、ここに限ったものではありません。個々の教科でも学年が進むにつれ、レポートにまとめ発表する、という形の学習が増えます。ここに本校の学習のめざすものがあります。

ただ机の上での勉強ができればよい、とは考えていないのです。いろいろな学習を通して、社会の様々な現象を深く理解し、人生を生きていく上での正しい判断力を身につけてほしいと考えています。新しいものに挑戦し、それまでにはなかったものを創造し、その成果を人々のために還元していくような、社会に貢献できる人材を育成すること、それが本校の学習が目指しているもののなのです。21世紀の地球全体に関わる課題に対応できる人材を育成したいと考えているのです。

本校に入学すると、高校進学のためのいわゆる受験勉強は必要ありません。これまでの卒業生はそのことをいかし、興味ある分野の能力を大いに伸ばしたり、部活動や同好会活動に打

ち込んだり、あるいは趣味の世界を広げたりしてきました。そうした精神的に豊かな中学校生活を過ごすことで得た様々なものが、個々の生徒の貴重な財産となり、高校・大学へと進学した後に大いなる人間的成長をとげるための基盤となっています。

また、本校の教員たちはそれぞれ、とても高い専門性を持っています。したがって生徒の多様な興味・関心に対し、どのようにも対応することができます。そうした点においても、本校での様々な学習から多くのことを得て、旺盛な知的好奇心が満足することでしょう。

なお、前述したように校外の方を招いたり、諸施設を訪問したりすることがあります。また、平日50分授業の中で実施するより、多くの時間をかけてゆったりと行なった方がよい学習もあります。そこで総合的な学習の時間は、生徒会活動や学校行事の準備活動などとともに、隔週の土曜日の午前中に行うことにしています。

2024年度 土曜日活用年間暦

			中学1年				中学2年				中学3年				高校1年				高校2年				高校3年				
			1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
1 学期	04/13	1	×			東京③		学活		×			×			×			×			×			×		
	04/20	2	水田①		学活		×			東北⑥		学活		水田①		HR		関西④		HR		HR					
	04/27	3	×			東京④		学活		×			×			×			×			×					
	05/04		×			×			×			×			×			×			×						
	05/11	4	×			×			×			HR			自治 予算		課題研究① (オリエンテーション)		関西⑤		自治 予算		HR		自治 予算		
	05/18	5	水田②耕起		学活		総会		東京⑤		総会		東北⑦		総会		HR		水田②耕起		×			×			
	05/25	6	×			×			×			×			×			×			進学懇談会						
	06/01	7	学活		水田③		×			東北⑧			学活		×			HR		課題研究②		HR					
	06/08	8	水田④ 田植え		学活		校内除草		東京⑥		東北⑨		テーマ① (オリエンテーション)		HR		水田③ 田植え		×			×					
	06/15	9	×			×			×			HR			校内除草		校内除草		課題研究③		HR		校内除草				
	06/22	10	水田⑤		校内除草		学活		東京⑦		校内除草		テーマ②		×			×			×						
06/29	11	×			×			×			×			課題研究④			×										
2 学期	09/07	1	体育祭練習		防災訓練		体育祭練習		防災訓練		体育祭練習		防災訓練		HR		防災訓練		HR		防災訓練		HR		防災訓練		
	09/14	2	体育祭練習		水田⑥		体育祭練習		学活		体育祭練習		テーマ③		×			×			×						
	09/21	3	×			×			×			体育祭練習 ・HR		水田④		体育祭練習 ・HR		課題研究⑤		体育祭練習・HR							
	09/28	4	水田⑦		学活		東北①		学活		×			×			×			×							
	10/05	5	水田⑧稲刈り(午前)			×			学活		テーマ④		水田⑤稲刈り(午後)			文化祭準備・HR			文化祭準備・HR								
	10/12		学校説明会																								
	10/19	6	×			学活		東北②		×			文化祭準備・HR			文化祭準備 ・HR		課題研究⑥		文化祭準備・HR							
	10/26	7	文化祭準備・学活			文化祭準備・学活			文化祭準備・学活			文化祭準備・HR			文化祭準備・HR			文化祭準備・HR									
	11/02	8	文化祭																								
	11/09	9	×			×			×			×			×			×									
	11/16	10	×			×			×			自治 総会		関西①		自治 総会		課題研究⑦		自治 総会		HR					
11/23		教育研究会																									
11/30	11	学活			学活		東北③		テーマ⑤			×			×			×									
3 学期	01/11	1	×			×			×			関西②		HR		HR		課題研究⑧		自主学習							
	01/18	2	東京①		学活		学活		東北④		学活		テーマ⑥		×			×			×						
	01/25	3	×			×			学活		課題研究 オープン		関西③		HR		HR		課題研究⑨ (課題研究オープン)		自主学習						
	02/01	4	×			×			×			×			×			×									
	02/08	5	東京②		学活		学活		東北⑤		テーマ⑦			×			×			×							
	02/15		×			×			×			×			×			×									
	02/22	6	弁論大会																								
	03/01	7	×			×			×			高校卒業式			高校卒業式			高校卒業式									

4 月

入学式
新入生オリエンテーション
健康診断

今日から筑駒生! 緊張した面持ちの新入生。



中学入学式



高校入学式

5 月

校外学習

どの学年も校外学習委員の生徒が中心となって運営し、登山やスポーツ大会などで仲間づくりを行ったり、フィールドワークで地域の社会に触れたりしていろいろなことを学びます。



黒姫校外学習(中1)



東北地域研究(中3)

6 月

田植え(中1・高1)
音楽祭
音楽鑑賞教室(高3)

ケルネル田んぼは井の頭線のすぐそば。



田植え



音楽祭

10 月

稲刈り(中1・高1)
芸術鑑賞会

鎌を上手にを使って、全て手作業で刈り取ります。



刈り取った稲をハサに掛け、ひと月ほど干します。



稲刈り

11 月

文化祭
教育研究会
理科野外実習(中3)



文化祭

干した稲から籾を取り出します。



脱穀

12 月

期末考査
文楽鑑賞教室(高2)
台湾国際交流(高1・高2)
餅つき(中1・高1)



台湾国際交流



餅つき

個性豊かな仲間とともに、協働し、ぶつかり合い、尊重しあう

7 月

期末考査
地域研究発表会(中2・中3)
歌舞伎鑑賞教室(高1)
筑波大学訪問(高2)



地域研究発表会



筑波大学訪問(高2)

8 月

合宿前健康診断
クラブ夏季合宿



サッカー部合宿

合宿には中学生も参加します。
OBがコーチに来てくれるクラブも。



生物部合宿

9 月

防災訓練
課題研究発表会
体育祭

全学年でいろいろな訓練を行います。



防災訓練



体育祭

1 月

ロードレース

例年、多摩川河川敷のランニングコースで開催され、
中学生は4km、高校生は8kmの区間を走ります。
唯一、個人で挑むことができる行事です。
走ることの楽しさを理解するとともに、
心身を鍛錬し、やり抜く力を育成します。



ロードレース

2 月

筑波大学訪問(中3)
弁論大会(中学)



筑波大学訪問(中3)



弁論大会

中学生全員が参加し、弁論大会実行委員の生徒が
中心となって運営します。各クラスやクラブなどの
有志団体が弁論術を駆使してそれぞれの主張を発表し、
活発な質疑応答が繰り広げられます。

3 月

期末考査
釜山国際交流(高1・高2)
卒業式



中学卒業式



高校卒業式

音楽祭

指揮者のリーダーシップと皆のフォローシップが感動を生み出す

5 月下旬、校外学習が終わる頃から、朝と放課後には各教室から歌声が響きます。音楽祭に向けての活動はすでに4月より始められ、クラスの自由曲の選定、指揮者やピアニストの選出などの話し合いのほか、合唱の完成度を高める練習や表現方法についての議論が真剣に繰り広げられ、合唱

を通じて音楽の魅力と仲間で心をひとつにすることを学びます。中学は課題曲と自由曲、高校は自由曲2曲を演奏します。準備から本番に至るまで、音楽祭実行委員の生徒が中心となって運営します。発表会場は昭和女子大学「人見記念講堂」をお借りし、専門家の審査・講評を受けます。



指揮者が合唱をまとめてあげます



クラス演奏では声と心をひとつに



緑の下の力持ち、音楽祭実行委員



審査員の先生方による講評も熱が入ります



ピアノ演奏は合唱の要



音楽部の演奏は音楽祭の花形



人見記念講堂は日本屈指の名ホール

体育祭

2日間にわたり繰り上げられる熱き戦いに大盛り上がり！

毎年、2日間にわたり行われます。サッカー、バレー、バスケットボールなどの団体種目が同時展開され、午後から陸上種目、剣道、卓球などの個人種目が行われ、工夫を凝らした応援合戦などで盛り上がります。全校生徒が複数の種目に

参加し、細かなルールづくりの段階から体育祭実行委員の生徒が中心となって運営します。スポーツを通じて普段の運動成果を発揮するとともに、色別対抗戦によるクラス内および異学年での仲間づくりも体育祭の大きなねらいの1つです。

クラスで団結「大縄跳び」



各団異なる応援合戦

体育館競技にも熱が入る！



体育祭の最終競技：棒引き



白熱のハンドボール

色対抗駅伝のスタート！



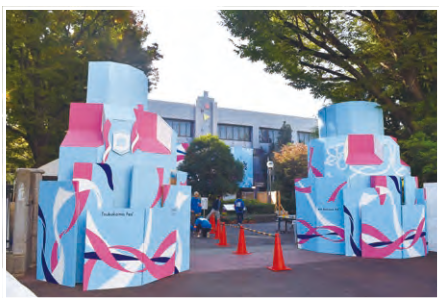
土俵での相撲は大人気！

何をやるにも徹底的！とことん来場者を楽しませる

毎年大勢の来場客を迎えて3日間催され、全校生徒が参加する、1年の中で最も盛り上がる行事です。文化系クラブや同好会の大事な活動発表の場であり、各クラスでも4月より展示、演劇、パフォーマンスなどの発表準備が始められます。団体での共同作業が、人間的成長や仲間づくりの大事な機会に

なっています。高校3年生はクラスを解体し、食品、縁日など5～6団体の文化祭特別班に分かれ、1年間かけて入念に準備を進め、当日は文化祭の中心となって活躍します。文化祭実行委員の生徒が中心となって準備から本番、片付けまでの全ての進行を管理し、文化祭を支えます。

文化祭の校門装飾



他校を招いての企画も



ステージでのダンスパフォーマンス



校長先生もステージ企画に登場！

中学HR展示では、未来の校舎を模型で作成！



身体能力を競う企画「コロシム」



抱腹絶倒の高3コント班



文化部による発表や展示も充実



鉄道模型の操縦できます



高3緑日班のゲームに熱中！

高3喫茶班
バックヤード
で調理中



入れたての
コーヒーを
どうぞ



高校HRに
よる演劇



高3緑日班



高3食品班の
屋台メニュー



来場者の憩いの場



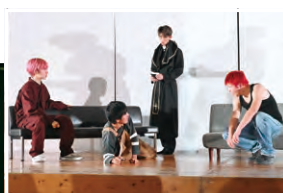
中夜祭での光のパフォーマンス



文化祭成功の立役者 文化祭実行委員



オリジナル映画の上映も



高3演劇班による公演

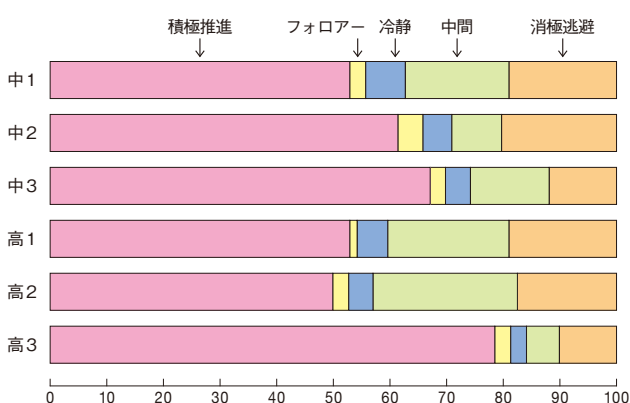


感動の高3ステージ班ファイナル

学校文化と伝統が、生徒を『自分づくり』へといざなう

筑 駒の精神は、「学校行事でつくられ、そして引き継がれる」といっても過言ではないでしょう。世間の一般的な「筑駒」のイメージは、受験進学校、勉強しかできない、青白くてひ弱な生徒集団というものでしょうか。しかし、彼らの行事にかけるエネルギー、集中力・計画性などは、そのようなイメージがいかに一面的な見方であるのかを示しています。

図1は、本校の学校行事で最も生徒が力を注ぐ文化祭についてのアンケート結果です。



【積極推進】：積極的に参加し、中心にいと自認している生徒集団
 【フォロアー】：積極的に参加しているが、やや周辺にいと自認している生徒集団
 【冷静】：中心的な役割を果たしているが、それほど熱く燃えない生徒集団
 【消極逃避】：消極的な参加で、あまり関わりたくないという生徒集団

図1 文化祭への参加状況の類型化

図1からいろいろなことが読み取れますが、ここでは2つのことを指摘しておきます。1つは、希望に燃えて入学した中学1年生の時よりも、「積極推進」派が中学3年生まで年々増加していることです。これは、各クラスの文化祭内容の深まりに従い、多くの生徒が活動にのめり込んでいくことを示しています。また、中学1年次に、上級生の内容のすばらしさ、レベルの高さに驚き、自分たちも内容を深めていこうとしていることが表れていると考えています。



もう1つは、高校1年生になり新たな仲間が増え、学校行事についても仕切り直しをするという時期を迎え「積極推進」派がやや低下しますが、高校3年生では8割もの生徒達が、「積極推進」派であることを自認していることです。文化祭開催日が、世間では「受験追い込み」の11月であるにもかかわらず、これだけの生徒が積極的に学校行事に参加していることの意味をお考えいただければと思います。

高3の企画自体は高2の文化祭終了後に早くもスタートし、そして文化祭までの1ヶ月は、勉強に十分集中できない状況になります。ただ、本校の進学状況を考えますと、文化祭後の彼らの集中力、エネルギーがいかに素晴らしいものであるかがお分かりいただけるでしょう。

また、保護者の方々が、そのような我が子の様子を見て「もう少し受験勉強を」と思われるのは正直なご意見だと思います。しかし彼らはそのような親を説得していく力も持ち合わせています。卒業生の保護者の中には「あの時期は何を言ってもだめ、筑駒での最後の仕上げをさせてくれとって、あまり言うて怒られるくらい」とおっしゃる方もいました。

また図2は、文化祭が自分の人格の形成にかかわっているかどうかを尋ねたものです。

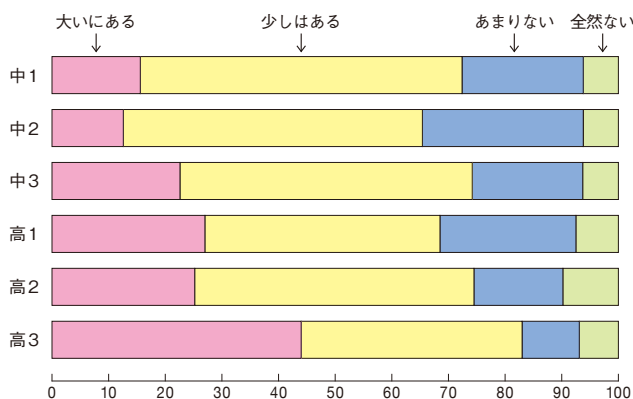


図2 文化祭への人格形成への影響

これによると、文化祭が『自分づくり』に役立っているとする生徒は、学年進行とともに増え、高校3年生では約8割の生徒が「意味がある」としています。そして、その内容には「責任感」「忍耐力」「計画性」「企画力」「想像力」「やり抜く力」などの能力があげられています。

このような教育機能は、教員だけの指導力で形成されるものではなく、また生徒の力だけでも不可能でしょう。その両者の力と共に、いまや死語となってきた観がある学校の「伝統」や「学校文化」が基盤となって、教育力を発揮したものと考えています。

思 春期を迎える子ども達の心は、直線的には発達しません。紆余曲折を経ながら『自分くずし』や『自分づくり』を行い、成長していきます。例えば、親子関係では心理的な離乳期を迎え、「甘え・依存と自立の再構築」が行われ、友人関係では「仲間選び」とその過程を通じた「自己認識・自分の位置付け」が行われていきます。

これらの成長は仲間との共同作業や協力関係の中でこそ養われ、あるときは協力による感動や楽しさで心が活発に働き、また反対に仲間との軋轢により意欲が低下することもあります。さらに、外見上は静かに沈滞しているようであっても、次のステップに向けてじっと力を蓄えている時期もあります。

学業・学校行事・クラブ活動は、生徒の全面的な人格形成の場を提供するだけでなく、子ども達の精神を鍛える場と機会にもなっています。

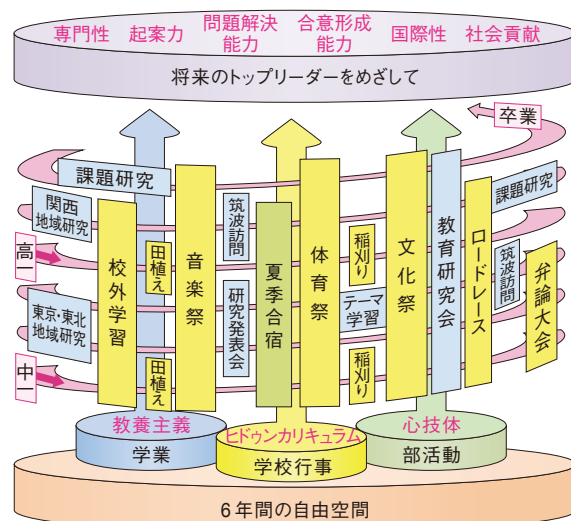


図3 6年間の自由空間

小学校期	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
『普通の』成長過程	【様子見期】					【大人化】 他者との 関わり・交流
学級崩壊演出者					【検索期3】 グループ強化 居場所換え	自己認識 他者への やさしい評価
受験以外シャットアウト					グループ強化と 再度 「やりたい」こと探し	
早期の反抗期				【検索期2】 グループ化		
仲間との交流希薄			【検索期1】 居場所作り	安心できる場 仲間の確定		
コミュニケーション不全	【混乱期】 自分くずし・選別		安心できる場 仲間探し 他者評価の厳しさ・ 大人への批判			
運動体験・遊び体験不足	自我の芽生え 自己中心 足の引っ張り合い コミュニケーション不足 幼児性 良い子≠過剰反応					
親のかかわり方						
二人三脚の旅						
外注化						
	接し方が わからなくなる		いい意味での あきらめ		支援 見守る	悟り 個人として評価

↑
こころの安定度
↓

図4 6年間の心の成長



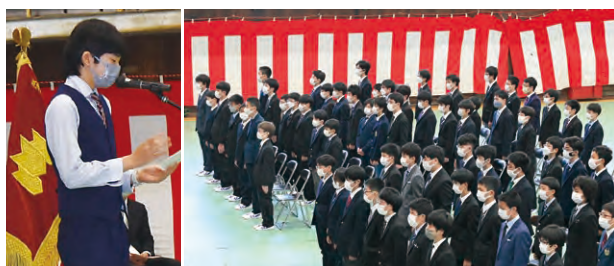
自主・自立の精神を育み、教養ある人格を養う

中学生徒会

役員会・文化祭実行委員会・体育祭実行委員会・音楽祭実行委員会・弁論大会実行委員会・保健委員会・図書メディア委員会・視聴覚委員会・公民委員会・広報委員会・クラブ委員会

高校自治会

役員会・文化祭実行委員会・体育祭実行委員会・音楽祭実行委員会・保健委員会・図書メディア委員会・視聴覚委員会・選挙管理委員会・監査委員会・学芸委員会・運動委員会



中学入学式(中学生徒会長祝辞)



高校卒業式(前自治会長答辞)



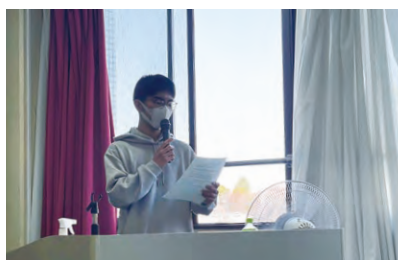
体育祭実行委員会(得点表示)



音楽祭実行委員会(開会式)



図書メディア委員会(蔵書チェック)



弁論大会実行委員会(進行説明)



文化祭実行委員会(案内所)



文化祭実行委員会(付属審査委員会)

中学生徒会会則によれば、生徒会は学校承認のもとに教員の助言と指導により、必要な活動の一切を行うことになっています。その目的は、会員相互の友好と学校生活の向上を図り、教養ある人格を養うことにあります。このように記すと、とてもかたく感じるかもしれませんが、要は、本校における生徒活動が、一人の人間として成長していくために自分たちの問題を自分たちで解決していく、自治能力あるいは自治意識を養うためにある、ということです。

生徒会には、最高議決機関

としての総会のほか、評議会、役員会があります。そのほかには、保健委員会などの委員会、行事を運営する実行委員会があり、生徒の自主性にもとづく活動が展開されています。

高校では、生徒会という名称が自治会に変わります。主旨は、中学で育て上げられた自主性や自立性を高校ではさらに自治的な活動にまで高めていく

ことにあります。役員会および各委員会は、学校全体を視野に入れ、生徒全員の利益を考え、教員側と交渉したり、学校代表として対外的な交流を行ったりします。

国際交流(生徒会自治会生徒による歓迎セレモニー)



基盤となる体力を身につけ、豊かな個性を磨き上げる

長い受験競争から解放され、中学1年生は嬉々としてクラブ活動に参加します。クラブ数は多く、同好会もあります。特徴としては、中高一貫教育を生かし、高校生が中学生の指導にあたり、また目先の勝ち負けにこだわらずに長い目で指導できるところにあります。

活動日はクラブにより異なります。運動クラブは施設の関係でおよそ週3日程度活動します。クラブによっては、自主的な練習や、昼にトレーニングルームでウェイトトレーニングなどを行い、練習量を確保しています。また、夏休みには各クラブで合宿が行われ、中高あわせて600名近い生徒が参加します。

複数のクラブに所属する生徒も多く、地区大会の時期や文化祭の時期など、年間を通して盛んに活動しています。文化系クラブも運動系クラブも、毎年各種大会において、多くの生徒が輝かしい成果を残しています。

クラブ活動一覧

音楽部・農芸部・生物部・文藝部・駒場棋院・将棋部・パソコン研究部・中学科学部・高校化学部・演劇部・語学部・中学鉄道研究部・数学科学研究部・クイズ研究部・パズル部・サッカー部・バスケットボール部・ハンドボール部・軟式テニス部・硬式テニス部・野球部・卓球部・剣道部・水泳部・陸上競技部・野山を愛する会(中学)・高校山岳部

※ほかにも同好会として、筑駒Jugglers(ジャグリング)、折紙研究会などが活動しています。



剣道部



中学科学部・高校化学部



卓球部



音楽部



サッカー部



農芸部



駒場棋院



中学鉄道研究部



野球部



日程	大会	タイトル	氏名	部
4月10日	第2回日本天文学オリンピック	銅賞 敢闘賞・ジュニア奨励賞	森結祐 花井太嗣	
4月23日	第5回 アジア太平洋言語学オリンピック	金賞	塚田智志	
5月 18-21日	第17回 アジア太平洋情報オリンピック	銀メダル	林涼太郎、関口勇音、 太田克樹	
5月28日	東京都高等学校春季水泳競技大会	男子100m 平泳ぎ 第7位	森原健斗	水泳部
5月28日	第23回アジア物理オリンピック	銅メダル・参加賞	揚妻慶斗、東川レオン、 石川 貴士	
6月11日	文部科学大臣杯第19回 小・中学校将棋団体戦東京都予選	中学校の部 A 級 準優勝 中学校の部 B 級 準優勝	菊池飛呂、蛭田勇気、 松田知樹 福田健真、佐藤陽輝、 田辺直希	将棋部
6月18日	東京都中学校囲碁大会	C クラス 準優勝 D クラス 優勝 D クラス 準優勝	米谷崎 宮崎麗 加藤工朗	駒場棋院
7月12日	第64回国際数学オリンピック	金メダル	古屋 奏	
7月17日	第53回国際物理オリンピック	銀メダル	東川レオン、喜多俊介	
7月29日	第20回国際言語学オリンピック (ILO2023)	銅メダル	塚田智志	
8月7日	第73回世田谷区民体育大会 中学高校テニス大会	高校男子シングルス第3位	中野弘康	硬式 テニス部
8月10日	第34回 川口市青少年ピアノコンクール	グランプリ(全部門1位)、 D部門(中学生)優勝	荒井建人	
8月 15-16日	第69回東京都十六高校対抗 水上競技大会	男子200m 平泳ぎ 第2位 男子100m 平泳ぎ 第2位	森原健斗	水泳部
8月20日	日本生物学オリンピック 2023	金賞 銀賞 敢闘賞	西山涼介 岩下佳生 高本穂太郎	
8月22日	第19回全国物理コンテスト 物理チャレンジ 2023 全国大会	金賞 銀賞 銅賞	東川レオン 揚妻慶斗 田中喜大	
8月25日	第29回スーパーコンピューティング コンテスト SuperCon2023 本選	第3位	小龍大翔、太田克樹 (チーム名「prism」)	
8月25日	T-STEAM:Pro2023 FLY HIGH! ～羽ばたく生き物を模倣せよ～ 豊島岡女子学園主催	総合優勝	沼田啓聖、本橋龍成、 和田健一郎 (チーム名「Caramel」)	
8月30日	化学グランプリ 2023	金賞 銀賞 銅賞	海老原周作、飯野拓人、 井戸沼悠成 揚妻慶斗 田邊峻望	
9月4日	第35回国際情報オリンピック	金メダル	西脇響喜	
9月9日	令和5年度 [明るい選挙啓発ポスターコンクール] (世田谷区選挙管理委員会)	入選 都奨励賞 ※東京都ポスターコンクール へ推薦	鈴木智尋 鈴木智尋、大森瑛仁	
9月16日	東京都高等学校新人水泳競技大会	男子50m 平泳ぎ 第4位	森原健斗	水泳部
9月18日	世田谷区秋季新人軟式野球大会	第3位		中学 野球部
9月23日	世田谷区中学校秋季研修大会	男子シングルス1年生の部 第2位	渡辺仁	卓球部
9月	日本植物学会第87回大会 高校生研究ポスター発表	奨励賞	高本穂太郎、西山涼介	
10月	化学グランプリ 2023 日本化学会関東支部表彰	支部長賞 支部奨励賞	多田諒典 武石航輔、野中亮汰	
10月8日	第46回東京都高等学校文化祭演 劇部門 山手城南地区大会 / 第77回東京都高等学校演劇 コンクール 山手城南地区発表会	都大会推薦・ 生徒審査地区賞	大津尚之、清水栞志、 榮次悠人、田中大二郎、 大賀翔太、佐々木類、 加藤旺介、長谷川幸裕	演劇部
10月15日	The 26th Tokyo Senior high school English Debate Contest	3rd Best Debater Prize	黒田浩輝	語学部
10月22日	世田谷区中学校サッカー新人大会	第3位		中学 サッカー部
10月29日	世田谷区中学校新人卓球大会	男子シングルス 都大会進出決定	株田将吾、佐藤勇太	卓球部
11月3日	第26回数理科学コンクール	金賞	伊藤和生、田中喜大	
11月11日	日本バズル選手権 2023	第3位	武藤拓真	
11月12日	第46回東京都高等学校文化祭 演劇部門 中央大会 / 第77回東京都高等学校 演劇コンクール 中央発表会	関東大会推薦 / 全国高等 学校演劇協議会長賞 / 審査員特別賞 / 東京都教育委員会賞	大津尚之、清水栞志、 榮次悠人、田中大二郎、 大賀翔太、佐々木類、 加藤旺介、長谷川幸裕	演劇部
11月12日	パソコン甲子園 2023	プログラミング部門 準グランプリ プログラミング部門 第3位・新人賞	諸岡知樹、林涼太郎 (チーム名「anmisted」) 小龍大翔、太田克樹 (チーム名「prism」)	
11月13日	世田谷区令和5年度 [明るい選挙啓発ポスターコンクール]	高等学校の部 入選	鈴木智尋	パソコン 研究部
11月14日	税に関する高校生の作文	東京国税局長賞	武藤真	
11月19日	東京都中学校囲碁大会	C クラス 準優勝	徳永峻太	駒場棋院
11月25日	中学生科学コンテスト	東京都知事賞 銅賞 優秀賞	岩上頼良、玉木聡介、 松本 隼 堀内遼生、宮内聡輔、 岡田惺矢 姜雨朔、松本政宗、 山下和真	
11月25日	科学の甲子園東京都大会	東京都知事賞(総合第1位) / 実技競技第3位	飯野拓人、岩下佳生、 梅崎文、大土海音、 大庭嵩弘、居石壮平	
12月10日	第11回 科学の甲子園ジュニア全国大会	優良賞・筆記競技第5位 / 東京都代表チーム	岩上頼良、玉木聡介、 松本 隼 ※渋谷教育学園渋谷中 学校の3名と合同チーム	
12月10日	JSEC2023(第21回高校生・ 高専生科学技術チャレンジ)	入選	中澤建貴、妻鹿洸佑	
12月16日	第19回 U-18 将棋スタジアム	中高生チャレンジャークラス 優勝	蛭田勇気	将棋部

日程	大会	タイトル	氏名	部
12月16日	第19回 U-18 将棋スタジアム	中高生チャレンジャークラス 準優勝	根波朝尋	将棋部
12月17日	第7回中高文渉コンペティション	第3位	甲斐麻椰、松岡秀磨、 齋藤貴広、田頭悠、 田部主真	
12月17日	塩野直道記念 第11回「算数・数学の自由研究」 作品コンクール	最優秀賞 (Rimse 理事長賞) 奨励賞 (中央審査員奨励賞高等 学校の部)	澤本雄正 大森瑛仁	
12月23日	第18回筑波大学朝永振一郎記念 「科学の芽」賞	奨励賞	宮内聡輔、小森光一	
12月24日	東京都中高一貫校対抗水泳競技 大会	男子50m 平泳ぎ 1位(新記録)	森原健斗	水泳部
12月24日	第9回 PDA 高校生即興型英語 ディベート全国大会	第3位	黒田浩輝、長谷川佑一郎、 ファスカインディゴ風	語学部
12月25日	AtCoder Junior League 2023	中学生部門 第1位 ※学校対象 中2部門 中3部門 高校生部門 第1位 ※学校対象 高1部門 高2部門 高3部門	第1位 小田真史、 第6位 弓矢多珠門、 第8位 大谷遥太、 第11位 永重諒人、 第16位 井上諒哉、 第20位 岡田惺矢 第2位 寛敬介、 第4位 佐甲瑛、 第8位 山本一輝、 第12位 大寺貴也 第1位 関口勇音、 第2位 太田克樹、 第5位 小龍大翔、 第6位 松井智生、 第7位 吉田侑樹、 第13位 川合敦己、 第16位 中山地広 第2位 林涼太郎 第3位 諸岡知樹、 第9位 多田諒典	
1月6日	ファーストログジック杯第38回 全国オール学生将棋選手権戦	B クラス 準優勝 B クラス 第3位	根波朝尋 内野智仁	将棋部
1月14日	世田谷区中学校新人卓球大会	男子団体 第5位	株田将吾、佐藤勇太、 関比佐孝、千葉貴博、 植松秋都、渡辺仁、 永倉理人	卓球部
1月20日	第9回 PDA 高校生パラメンタリー ディベート世界交流大会	Semifinalists team prize Best Speaker (3 times) prize	黒田浩輝、長谷川佑一郎、 ファスカインディゴ風 ファスカインディゴ風	語学部
1月21日	第59回 関東高等学校演劇研究大会	優良賞「デュフ」	大津尚之、清水栞志、 榮次悠人、田中大二郎、 大賀翔太、佐々木類、 加藤旺介、長谷川幸裕	演劇部
2月5日	第23回 日本情報オリンピック	金賞 銀賞 銅賞 優秀賞	林涼太郎 関口勇音 太田克樹 松井智生、吉田侑樹、 小龍大翔、樋口峻大、 寛敬介、小田真史	
2月11日	第27回 東京都中学校冬季囲碁大会	トーナメント 第4位 A クラス 優勝 B クラス 優勝 B クラス 準優勝 銅賞	中井悠太 眞田行紘 高田真羽 宮崎麗 多田諒典、太田克樹	駒場棋院
2月19日	第34回日本数学オリンピック (JMO)	優秀賞	細川智文、全井一真、 大庭嵩弘、松井智生、 鈴木雄智	
2月19日	第22回日本ジュニア数学オリンピック (JJMO)	銅賞	吉田啓志、中野竜	
2月22日	日本語学オリンピック (JOL)	最優秀賞第1位 (+関東B地区賞) 金賞 (+関東B地区賞)	塚田智志 相澤遼太	
2月23日	第18回 科学地理オリンピック日本選手権	銅賞	倉内湊、田頭悠、森結祐	
2月24日	第29回 全国高等学校デザイン選手権大会	準優勝	今井龍、田中喜大、 伊藤和生	
3月10日	第35回子ども将棋大会 (池之上青少年協議会・池之上 青少年交流センター)	中学生の部 優勝 中学生の部 準優勝	幸迫結斗 玉木聡介	将棋部
3月12日	第16回日本地学オリンピック	金賞 銀賞	穴戸 介 島浦郁人	
3月16日	第24回日経 STOCK リーグ	中学部門優秀賞 審査委員特別賞	大澤路万、加藤楓、 韓佳翔、國谷瑞樹、 近藤佐介 大寺貴也、関村空大、 沼田啓聖、和田健一郎、 小高孝一	
3月16日	第13回科学の甲子園全国大会	第2位(科学技術振興機構 理事長賞、日本理科学教育 振興協会賞)	大土海音、岩下佳生、 飯野拓人、梅崎文、 大庭嵩弘、居石壮平、 田中喜大、波多野匠斗	
3月16日	第3回日本天文学オリンピック	銅賞 敢闘賞	島浦郁人 穴戸 介	
3月29日	第43回世田谷区中学校団体 対抗テニス大会	高校男子 第3位	並遥瑠貴、鬼澤駿太郎、 中野弘康、中村尚志、 三輪虎之介、松村泰和	硬式 テニス部

この他にも、世田谷区大会などで幅広い活躍をしています。

2024年度 国公立大学 合格者数・進学者数

大学	学部等	合格者数			進学者数		
		新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
北海道大学	理		1	2		1	2
	薬		1			1	
東北大学	理		1	1		1	1
山形大学	医		1	1		1	1
千葉大学	法政経		1	1			
横浜国立大学	理工	1	1	2	1	1	2
信州大学	医		1	1		1	1
山梨大学	医	4	2	6	1	2	3
筑波大学	生命環境	1		1	1		1
東京大学	文科一類	11	4		11	4	
	文科二類	7	3		7	3	
	文科三類	1	3		1	3	
	理科一類	37	4		37	4	
	理科二類	4	6		4	6	
	理科三類	7	1		7	1	
	工	1			1		
	理	1			1		
東京医科歯科大学	医	5	2	7	5	2	7
東京工業大学	情報理工学院		1	1		1	1
一橋大学	経済	1	1		1	1	
	ソーシャル・データサイエンス	1			1		
金沢大学	医	1		1	1		1
京都大学	法		1			1	
	経済	1			1		
	理	1			1		
	医	1			1		
横浜国立大学	国際教養	1					
	医	1			1		
合計		88	35	123	84	34	118

※ 医は「医学部・医学科」

2024年度 私立大学 合格者数・進学者数

大学	学部等	合格者数			進学者数		
		新卒	既卒	合計	新卒	既卒	合計
国際医療福祉大学	医	3	2	5			
青山学院大学	理工	1	1	2			
慶應義塾大学	文		2			1	
	経済	9	2		1		
	法	1	1				
	商	5	4		1	2	
	医	11	2		4		
	理工	18	12				
	環境情報	1	1		1		
	薬		1				
順天堂大学	医	4	1	5	1		1
上智大学	文		1				
	法		3				
	経済	2	2				
	理工	2	3			1	
昭和大学	医	1		1			
多摩美術大学	美術	1		1			
中央大学	法		2			1	
	理工	1					
	文		1				
専修大学	法	1		1			
東京医科大学	医		1	1			
東京慈恵会医科大学	医	5	1	6			
東京薬科大学	薬	1		1	1		1
東京理科大学	理	10	2				
	工		2				
	薬		1				
	創域理工	1	3		1		
	先進工		1				
	経営	2					
日本大学	法	1		1			
日本医科大学	医	5		5	1		1
法政大学	法	2					
	理工		1	3			
武蔵野美術大学	造形	1		1			
明治大学	法		1				
	商		1				
	文		2				
	理工	1	3				
	農	1					
	総合数理		1				
立教大学	文		1	1			
早稲田大学	政治経済	21	10		4	1	
	社会科学	5	5		1		
	法	9	8		1		
	商	3					
	基幹理工	16	10		3	2	
	創造理工	3	2				
	先進理工	15	4		2	1	
	教育	1	2				
関西学院	社会	1		1			
防衛医科大学校	医	1	3	4	1		1
合計		166	106	272	23	9	32

※ 医は「医学部・医学科」

OBとのつながりを活かして
10年後、20年後を考えます。

高校2年 進路懇談会

高校2年次には、生徒よりも10～20歳くらい年齢の離れた卒業生を招き、進路懇談会を実施しています。様々な分野に分かれ、自分の進路希望と重ねながら卒業生から職業の選択や大学での研究について話を聞き、その上でキャリアについて対話できるよい機会となっています。

【進路懇談会の分科会の例】

- ① 法学
- ② 文学
- ③ 経済学
- ④ 教育学
- ⑤ 自然科学
- ⑥ 情報工学
- ⑦ 生命科学・薬学
- ⑧ 医学

高校3年 進学懇談会

高校3年次には、生徒と年齢が近い大学生や大学院生の卒業生を招き、進学懇談会を実施しています。高校3年当時の過ごし方や受験体験談、大学生活などの話題を中心に卒業生と対話をします。進路希望別に分科会方式で開催されます。





正門・7号館



温室・畑



高校HR棟(2号館)・高校ロッカールーム



体育館



武道館



プール



グラウンド



芝生の広場



中庭



多目的コート



図書スペース

「6年間の自由空間」を過ごす、のびのびとした緑豊かな環境



中学HR棟(4号館)



中学HR棟(教室)



トレーニング室



コンピュータスペース



オープンスペース



教職員数

校長	1
副校長	2
主幹教諭	8
教諭	33
養護教諭	2
事務職員	4
教務補佐員	5
駒場会後援会会計	1
校医	2
学校薬剤師	1
スクールカウンセラー	2
スクールソーシャルワーカー	1
非常勤講師	20
研究員	1
部活指導員	3

(2024年)

在籍生徒数(学級数)

中学校	367名
中1	123名(3)
中2	123名(3)
中3	121名(3)
高等学校	485名
高1	164名(4)
高2	164名(4)
高3	157名(4)

(2024年)



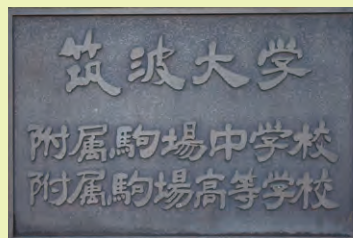
ケルネル田んぼ



創立50周年記念会館



ケルネル田んぼ



筑波大学附属駒場中・高等学校

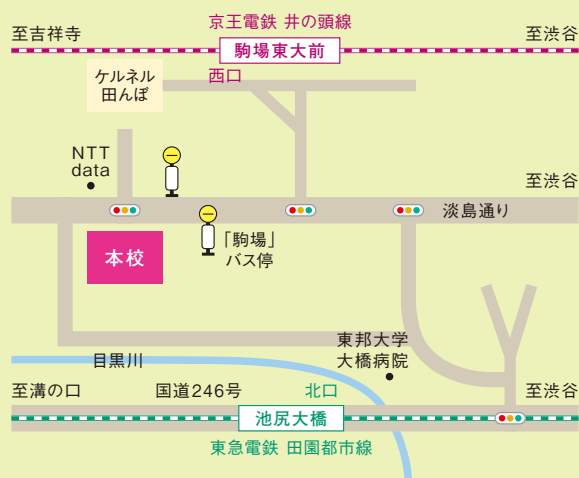
Junior & Senior High School at Komaba, University of Tsukuba

〒154-0001 東京都世田谷区池尻4-7-1

電話 03-3411-8521(代表)

FAX 03-3411-8977

<https://www.komaba-s.tsukuba.ac.jp>



アクセス

京王井の頭線	駒場東大前駅	西口より徒歩7分
東急田園都市線	池尻大橋駅	北口より徒歩15分
東急バス 渋51(渋谷ー若林折返所)	「駒場」バス停下車	徒歩1分
小田急バス 渋54(渋谷ー経堂)	「駒場」バス停下車	徒歩1分